

ヒトパルボウイルス B19（りんご病）について

伝染性紅斑はりんご病とも呼ばれ、両方の頬に赤い発疹（紅斑）が特徴のウイルス感染症です。幼稚園から学童期に好発し、5-6年周期で流行するとされています。この原因となるウイルスがヒトパルボウイルス B19 で、一度感染するとほぼ一生に間免疫が持続するといわれています。血液検査で調べてみると子供と接する機会の多い仕事についている人ではその免疫をもっている確率が高いといわれています。

妊娠中にこの感染症に罹った場合ですが、流産、早産、胎児水腫など赤ちゃんへの影響が報告されています。しかし、これらの影響は妊娠 20 週以前の場合であり、妊娠 20 週以降にこの感染症に罹っても赤ちゃんへの影響はないと考えられています。流産の発生率については通常の妊娠経過に比べ 9% 位その頻度が増加するとされています。また、胎児水腫はこのウイルスが赤血球系の幼若な細胞に感染しやすく、赤ちゃんが高度の貧血になってその結果として起こるとされていますが、妊娠 20 週までの感染の 2.9% と報告されています。また、先天異常の原因になる割合も 1% 以下とされており、かつ長期的に問題になることはまずないといわれています。

ただ、子供と接する機会が多い妊娠初期の妊婦さんの場合、このウイルスに対する免疫をあらかじめ持っているかどうか確認しておけば、妊娠中にこの感染症の子供に接したりした時には有益な情報となります。